

貨物データファイル

コロナ禍収束で過去最高、羽田40%増

■東京税関・コンタクトレンズ輸入調べ

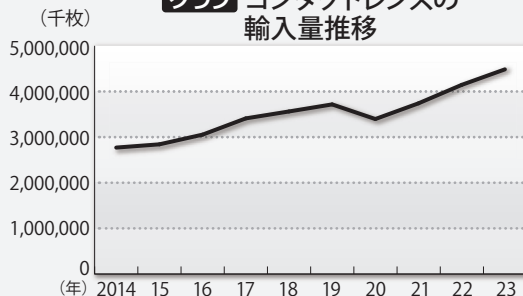
東京税関は17日、コンタクトレンズ(統計品目番号900130)の輸入動向を発表した。輸入量は2020年実績を除き、14年から23年まで毎年、過去最高を更新している。同税関がヒアリングした日本コンタクトレンズ協会によると、20年は新型コロナウイルス禍の影響で外出機会が減

少し、コンタクトレンズの使用が控えられたとのではないか、としている。23年の輸入港では羽田空港が前年比40.0%増の約14億枚で首位。コロナ禍収束に伴い復便が進んだ影響があると見られる。

23年の仕出地では、アイルランドが2.0%増の約15億枚で首位。2

位は台湾で4.1%増の約10億枚だった。台湾産は、カラーコンタクトレンズが若い女性を中心に人気があり伸びているという。また、同日の会見で同税関は、世界大手の半導体関連メーカーが集積しており、ガラス関係の技術の高さをコンタクトレンズ生産にも生かしていると説明した。輸入手段については、仕出地が遠距離では航空、また、台湾など近距離では海上輸送の利用が多いという。

グラフ コンタクトレンズの輸入量推移



表① コンタクトレンズの2023年の輸入量上位5港

港	輸入量(千枚)	前年比(%)
羽田空港	1,397,056	140.0
東京港	1,382,504	134.6
成田空港	1,077,124	72.7
大阪港	263,478	168.6
横浜港	213,398	84.6
全国計	4,487,954	108.2

(財務省貿易統計を基に本紙作成)

表② コンタクトレンズの2023年の輸入量上位5カ国・地域

国・地域	輸入量(千枚)	前年比(%)
アイルランド	1,494,488	102.0
台湾	1,040,075	104.1
プエルトリコ	738,448	114.9
シンガポール	363,161	121.8
米国	271,974	98.9
世界計	4,487,954	108.2

(財務省貿易統計を基に本紙作成)